

週間火山概況（平成 23 年 1 月 21 日～平成 23 年 1 月 27 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

26日、霧島山（新燃岳）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げた。

その他の火山は、噴火に関する予報警報事項（警戒すべき事柄）に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（1 月 21 日～1 月 27 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概 要
1 月 26 日 17 時 30 分	霧島山 （新燃岳）	降灰予報	26 日 15 時 30 分の噴火に伴う降灰地域予想
1 月 26 日 18 時 00 分	霧島山 （新燃岳）	火口周辺警報	噴火警戒レベル 3（入山規制）へ引上げ
1 月 27 日 16 時 10 分	霧島山 （新燃岳）	降灰予報	27 日 15 時 41 分の噴火に伴う降灰地域予想
1 月 27 日 21 時 00 分	霧島山 （新燃岳）	降灰予報	27 日 17 時 28 分の噴火に伴う降灰地域予想
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 1 月 27 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	桜島、霧島山（新燃岳）
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山



図1 噴火警報発表中の火山 (1月27日現在)

この資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) にも掲載しています。

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

みやけじま

三宅島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

噴煙高度は火口縁上100～300mで経過した。

火山性地震は、少ない状態で経過した。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性がある予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。

いおうとう

硫黄島【火口周辺警報（火口周辺危険）】

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。

国土地理院の観測によると、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2010年11月中旬頃から一旦鈍化した。現在も継続している。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくあかのば

福岡ノ場【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

24日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、福岡ノ場付近の海面に火山活動による変色水が確認された。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

きりしまやま しんもろだけ

霧島山（新燃岳）【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】←26日に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から引上げ

26日07時31分にごく小規模な噴火が発生し、更に14時49分頃から火山性微動の振幅が大きくなり、中規模の噴火となった。同日15時30分頃から灰白色の噴煙が火口縁上1,500mまで上がり、今後、更に活動が活発になる可能性があることから、26日18時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げた。27日15時41分には中規模の爆発的噴火が発生し、17時28分には噴煙が火口縁上3,000mまで上がっているのを観測した。爆発的噴火が発生したのは1959年以来、52年ぶりである。

27日に実施した現地調査では、高千穂河原や御池付近で直径7～8cmの小さな噴石が飛散しているのを確認した。

噴火にともなう降灰を、鹿児島県霧島市から志布志市、宮崎県都城市から日南市まで観測した。

また、26日から27日にかけて九州地方の広い範囲で噴火によると考えられる空振¹⁾が観測された。

28日13時現在も噴火が続いている。

新燃岳から2km程度の範囲では、大きな噴石²⁾等に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）に注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。



図1 (左) 霧島山(新燃岳) 26日の噴火の状況

遠望カメラ(新燃岳の南南西約7km)では、26日07時31分に発生した噴火の規模が14時49分頃から大きくなり、18時50分には灰白色の噴煙が火口縁上2,000mまで上がり、南東方向に流れていた。

図2(右) 霧島山(新燃岳) 大浪池の監視カメラによる27日の噴火の状況

27日15時41分に中規模の爆発的噴火が発生し、噴煙が火口縁上2,500mまで上がり雲に入った。

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

昭和火口では爆発的噴火が23回発生し、大きな噴石²⁾が4合目(昭和火口から800~1,300m)まで達した。同火口では夜間に高感度カメラ⁴⁾で確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられていたが、2010年7月頃から鈍化している。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、大きな噴石²⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石²⁾(火山れき³⁾)に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

火山性地震は少ない状態で経過した。硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いている。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石²⁾に注意が必要である。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、噴火が断続的に発生した。これらの噴火に伴う噴煙の最高高度は火口縁上500mであった。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落(御岳の南南西約4km)では23日に鳴動と少量の降灰が確認された。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石²⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石²⁾に注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

- 1) 噴火などで発生した空気の急激な圧力変化が大気中を周囲に伝わる現象。
- 2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。
- 3) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 4) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等による。

注) データについては精査により、後日修正することがある。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山	
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）	
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒	
レベル4（避難準備）		または山麓厳重警戒	
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	入山危険	
レベル2（火口周辺規制）		火口周辺危険	
レベル1（平常）	噴火予報	平常	

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。